

平成28年度
教育委員会事務の点検及び評価報告書

平成29年6月
橋本市教育委員会

はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会が行う事務として、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が新たに規定されました。

このことを受け、橋本市教育委員会としては、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明を果たすため、有識者会議を設置し、ご意見をいただきながら、教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、橋本市教育委員会ホームページで公表しています。

点検及び評価の実施を通じて施策の効果を検証し、絶えず改善を図りながら、教育施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年6月

橋本市教育委員会

目次

I 本市における点検及び評価について	
1 点検及び評価の目的	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価結果の構成	1
4 学識経験者の知見の活用	1
5 議会への提出及び公表	1
II 教育施策の点検及び評価	
1 橋本市教育大綱	2
2 重点目標と重点的な取組	3
3 各重点施策の点検・評価結果	
(1)豊かな心を育みます	
ア 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭支援を推進する。	6
イ 家庭や学校、地域での人権意識の高揚に努める。	10
ウ 態度教育(あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰)を推進し、道徳性を育てる。	13
エ 地域文化や芸術、スポーツに親しむ場を提供する。	15
オ 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。	18
カ ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。	19
(2)多様な学びと健やかな体を育みます	
ア 基礎学力を基盤とし、主体性のある学びを推進する。	21
イ 学校・公民館を通して、多様性・共同性の学びを推進する。	23
ウ 保育園・幼稚園・こども園・小学校の連携及び小中一貫教育の充実に努める。	25
エ より良い学びの場のための教育環境を整える。	26
オ 持続可能な社会の担い手を育む教育(環境・人権・平和・キャリア・防災・ICT・国際理解)を推進する。	28
カ 読書活動の推進に向けて環境を整える。	29
キ 文化施設・社会体育施設(学びの場とスポーツに親しむ場)の充実に努める。	32
ク 食の大切さの学びを推進する。	35
(3)地域・家庭・学校の連携を育みます	
ア 公民館単位で「共育コミュニティ」を組織し、地域の活性化を推進する。	36
イ 地域の教育力を学校教育に生かすために、学校開放に努める。	37
ウ 学校や地区公民館を拠点として地域の学びと交流を推進する。	39
エ 福祉と教育が連携し、安心・安全、学びのまちづくりを推進する。	42
オ 子どもの健やかな成長に向けて「橋本市子どもスマホ宣言」を推進する。	43

III 教育委員会の活動状況

1 橋本市教育委員会機構図	44
2 教育委員会の会議等の活動状況	
(1)橋本市教育委員会委員	45
(2)教育委員会会議の開催状況	45
(3)教育委員の活動状況	45
(4)教育功労賞	45

IV 関連資料

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋	46
2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱	46
3 教育委員会事務の点検及び評価に係る有識者会議委員名簿	47

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的

教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、そのH28末成果及び課題等について自ら評価することにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出して、公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進します。

2 点検及び評価の対象

平成28年度の「橋本市教育大綱」の基本方針と重点目標の取組状況について、点検及び評価を行います。

3 点検及び評価結果の構成

○ 施策の柱

「橋本市教育大綱」における19の重点目標

○ 重点的な取組

基本方針の柱ごとの目標を達成するための重点的な取組について、その概要、指標、H28末成果及び課題と対応を記載しています。

○ 課題と対応

有識者会議における意見等を踏まえ、目標の達成に向けた課題と今後の対応や方向を示しています。

4 学識経験者の知見の活用

点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、以下の日に会議を開催し、点検及び評価の実施方法並びにその内容等について御意見をいただきました。

第1回有識者会議 平成29年 1月16日

第2回有識者会議 平成29年 2月27日

第3回有識者会議 平成29年 3月 3日

第4回有識者会議 平成29年 3月23日

5 議会への提出及び公表

平成29年6月議会に報告書を提出するとともに、橋本市教育委員会のホームページに掲載します。

<http://www.chw.jp/shisei/kyoikuiinkai/sesaku/tenken.html>

橋本市教育大綱

[理念] 人が学びあい、共に育むまちづくり

－ 自立と共生のまち橋本市に向けて－

[基本方針と重点目標]

(1) 豊かな心を育みます

- ア 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭支援を推進する。
- イ 家庭や学校、地域での人権意識の高揚に努める。
- ウ 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰）を推進し、道徳性を育てる。
- エ 地域文化や芸術、スポーツに親しむ場を提供する。
- オ 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。
- カ ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。

(2) 多様な学びと健やかな体を育みます

- ア 基礎学力を基盤とし、主体性のある学びを推進する。
- イ 学校・公民館を通して、多様性・共同性の学びを推進する。
- ウ 保育園・幼稚園・こども園・小学校の連携及び小中一貫教育の充実に努める。
- エ より良い学びの場のための教育環境を整える。
- オ 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・ICT・国際理解）を推進する。
- カ 読書活動の推進に向けて環境を整える。
- キ 文化施設・社会体育施設（学びの場とスポーツに親しむ場）の充実に努める。
- ク 食の大切さの学びを推進する。

(3) 地域・家庭・学校の連携を育みます

- ア 公民館単位で「共育コミュニティ」を組織し、地域の活性化を推進する。
- イ 地域の教育力を学校教育に生かすために、学校開放に努める。
- ウ 学校や地区公民館を拠点として地域の学びと交流を推進する。
- エ 福祉と教育が連携し、安心・安全、学びのまちづくりを推進する。
- オ 子どもの健やかな成長に向けて「橋本市子どもスマホ宣言」を推進する。

重点目標と重点的な取組

(1) 豊かな心を育みます

ア 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭支援を推進する。

- ①子育て、親育ち講座の充実を図ります。
- ②教育相談センターを中心に、専門機関と連携し、心理的支援を行います。
- ③学校・家庭・地域・関係機関との連携を深め、青少年非行の未然防止活動に努めます。
- ④橋本市家庭教育支援チーム事業を推進し、家庭教育支援の充実に努めます。
- ⑤子ども館・児童館活動を充実させ、各種事業を実施します。

イ 家庭や学校、地域での人権意識の高揚に努める。

- ①人権教育啓発教材の作成と活用を図り、人権教育の推進に努めます。
- ②学級等の集団づくりの充実に努めます。
- ③いじめの未然防止を図ります。
- ④「人権講演会」などを開催し、人権教育の充実に努めます。

ウ 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰）を推進し、道徳性を育てる。

- ①道徳教育の推進に努めます。
- ②中学生ボランティア・青年リーダーの育成に努めます。
- ③態度教育の推進に努めます。

エ 地域文化や芸術、スポーツに親しむ場を提供する。

- ①文化材の保護活用に努めます。
- ②黒河道（くろこみち）の世界遺産登録への取組みを推進します。
- ③芸術文化の振興に努めます。
- ④スポーツに親しむ場を提供します。

オ 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。

- ①自然と触れ合える体験活動の充実を図ります。

カ ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。

- ①郷土の偉人の足跡を紹介し、郷土愛を育みます。
- ②ふるさと学習副読本を作成します。

(2) 多様な学びと健やかな体を育みます

ア 基礎学力を基盤とし、主体性のある学びを推進する。

- ①学力向上に努めます。
- ②体力向上に努めます。
- ③教職員の資質向上に努めます。

イ 学校・公民館を通して、多様性・共同性の学びを推進する。

- ①橋本市生涯学習推進計画に基づいた取組を進めます。
- ②「すこやか橋本 まなびの日」事業を実施します。
- ③地域の特性、歴史、文化を生かした交流事業を充実させます。

ウ 保育園・幼稚園・こども園・小学校の連携及び小中一貫教育の充実に努める。

- ①保育園・幼稚園・こども園と小学校との接続について、研究を進めます。
- ②小中一貫教育の充実に努めます。

エ より良い学びの場のための教育環境を整える。

- ①教育環境の施設整備に努めます。
- ②児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、就学援助を行います。
- ③教職員や児童生徒の心身の健康保持に努めます。
- ④安定した学級運営を行うため、必要に応じて人的支援を行います。

オ 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・ICT・国際理解）を推進する。

- ①総合的な学習の時間の充実を図ります。
- ②E S Dを意識した各種研修会を計画、実施します。

カ 読書活動の推進に向けて環境を整える。

- ①「橋本市子ども読書活動推進計画（第2次）」に基づき、読書活動の充実に努めます。
- ②だれもが読書に親しめる環境づくりを推進します。

キ 文化施設・社会体育施設（学びの場とスポーツに親しむ場）の充実に努める。

- ①住民との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。
- ②情報収集の場としての図書館機能の充実を図ります。
- ③スポーツ推進計画に基づき、体力向上に努めるとともに、生涯スポーツに繋がる基礎を培います。

ク 食の大切さの学びを推進する。

- ② 食に関する指導の充実に努めます。
- ②学校給食における食物アレルギー対応について検討します。

(3) 地域・家庭・学校の連携を育みます

ア 公民館単位で「共育コミュニティ」を組織し、地域の活性化を推進する。

- ①地域共育コミュニティ形成促進事業、放課後子ども教室推進事業、土曜日等子ども教室推進事業を実施します。

イ 地域の教育力を学校教育に生かすために、学校開放に努める。

- ①学校評価の実施と結果の公表を行います。
- ②保護者や地域社会に学校情報を発信します。
- ③学校開放を実施するための検討を行います。
- ④橋本市ボランティア登録制度による市民ボランティアの活用等により学校と地域住民や民間団体をコーディネートします。

ウ 学校や地区公民館を拠点として地域の学びと交流を推進する。

- ①地域と連携した安全教育を推進します。
- ②青少年育成市民会議の活動の推進に努めます。
- ③地域の学びの場として、公民館主催行事を充実させます。

エ 福祉と教育が連携し、安心・安全、学びのまちづくりを推進する。

- ①家庭教育支援相談室を設置し、福祉と教育が連携を深めます。
- ②学童保育の充実に努めます。

オ 子どもの健やかな成長に向けて「橋本市子どもスマホ宣言」を推進する。

- ①スマートフォン・携帯電話を正しく使う取組みとして、家庭と学校が連携してスマートフォン等の弊害の解消に取り組みます。

3 各重点的な取組の点検・評価結果

(1) 豊かな心を育みます

ア 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭支援を推進する。

指標名 ・内容	①地域支援者養成講座・子育て支援講座の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度地域支援者養成講座を 5 回開催、参加者は延べ 90 名 (5 回全て参加は 2 名) 子育て支援講座を 1 回開催、参加者は 64 名 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 地域で子育て支援をすることに興味を持ってもらえるよう、内容を考え前年度と同様に地域支援者養成講座・子育て支援講座を開催する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度地域支援者養成講座を 5 回開催、参加者は延べ 97 名 (5 回全て参加は 1 名) 子育て支援講座を 1 回開催、参加者は 100 名 本年度は、地域支援者養成講座の参加者が支援者としての活動に興味を持ってもらえるように、実際活動をされている方々に講座を開いていただいた。 地域支援者養成講座の参加者の中には「自分もやってみようと思う」との声もあり一定の効果をえた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 広報等で周知をはかった当初は申込みが多いが、回が進むにつれて申込みが少なくなる傾向にある。 LINE (ライン) 等により途中でも周知をはかるように工夫する。 		

指標名 ・内容	①保護者間のつながりづくり	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度、家庭教育支援チームによる講座を 99 回開催。参加者は大人 1,774 名、子ども 1,006 名 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 開催回数は、H27 末維持とし、保護者同士のつながりができるよう、関係機関と園が連携して講座等の内容を工夫する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度、家庭教育支援チームによる講座を 85 回開催。参加者は大人 1,656 名、子ども 911 名 保護者同士のつながりづくりを中心に講座を展開した。 特に就学時健診時のワークにより、知り合いのいない保護者にとっては不安が軽減されたとのアンケート結果も得た。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 保育園、幼稚園、小学校、公民館からは継続して依頼があるが、今後はこども園や子育て支援センターとの連携も図っていく。 		

指標名 ・内容	②長期欠席児童生徒数（不登校児童生徒数を含む）の削減	担当課室等	教育相談センター
H27 末	・平成 27 年度長期欠席児童生徒数 102 名（うち不登校児童生徒数 54 名）		
目 標	・平成 27 年度末長期欠席児童生徒数より 10%減（93 名うち不登校児童生徒数 50 名）に取組む。		
H28 末成果	・来室相談に加え、学校からの依頼を受けてケース会議を定期的実施した。結果として初期段階でスクールカウンセラーや関係機関での対応が可能となり、未然防止につなげることができた。（平成 28 年度長期欠席児童生徒数 101 名うち不登校児童生徒数 49 名）		
課 題	・学校の対応に加え、相談体制をスムーズに確立するために福祉部局との連携を図り、長期的な視点からの支援につなげること。		

指標名 ・内容	②不登校児童生徒の受け入れ	担当課室等	教育相談センター
H27 末	・適応教室指導員の専門性の向上を図り、学校・関係機関と連携した児童生徒支援を行っている。		
目 標	・社会的自立や学校復帰を目指した適応教室の充実を図る。		
H28 末成果	・指導員の子ども理解を深めることを目的に元校長の臨床心理士による指導助言を年間 8 回、所内事例研修を月 1 回実施。		
課 題	・中学生の利用減少。 ・子ども・保護者の意向を丁寧に把握し、入室検討会議を踏まえた適切な支援につなげていくこと。		

指標名 ・内容	②教育相談の充実、教職員に対する支援の充実	担当 課室等	教育相談センター
H27 末	・平成 27 年度教育相談件数 455 件 2,948 回、学校訪問 295 件 1,191 回、研修会講師・専門機関との連携会議 68 回		
目 標	・子ども・保護者に対する心理的支援の充実を図る。 ・学校教育と心理の双方に関する専門的知識を持った教職員の育成を行う。		
H28 末成果	・年間相談件数 784 件 3,498 回、学校訪問等のべ 2,189 回実施。未然防止対策の一環として、小学校 1 年生の担任と協議する場を 6 月・11 月に設定したことで指導支援に役立てることができた。		
課 題	・学校教育と心理の双方に関する専門的知識を持った教職員育成のために校内ケース会議の進行管理を充実させていくこと。		

指標名 ・内容	③非行防止活動の実施	担当課室等	社会教育課
------------	------------	-------	-------

H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間や長期休業中、夏祭り、秋祭り、夜店等の補導活動を実施している。 ・実施回数 27 回
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・補導件数が増加する長期休業中の補導活動を強化する。
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・警察・青少年センター連絡協議会及び橋本市青少年補導員会と連携し 29 回の補導活動を実施した。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・補導員への報酬がカットされたにもかかわらずたくさんの補導員が補導活動に協力してくれた。 ・補導員が高齢化してきている。

指標名 ・内容	③立ち直り支援の充実	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や家庭での生活態度について学校等と情報交換しながら改善点を見いだし指導することで、立ち直り支援が必要であった少年自身の生活が安定し、家族とのつながりを深める結果などが見られた。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の真情を吐露することの出来る場を提供し、精神的な安定を図る。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち直り支援、居場所作りを大切にした召致指導を 10 回のべ 16 人に対して実施した。 ・継続的な指導を実施することで、青少年だけでなく保護者にとっても精神的な安定を得られる場所になっている。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動を起こした青少年に対して継続して指導することが難しいケースにおいては学校や福祉部局との連携をさらに強化して支援していきたい。 		

指標名 ・内容	③環境浄化活動の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の駅に有害図書回収箱（通称「やぎの箱」）を設置し、月に 1 回点検・回収した。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き回収する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3 月末現在、有害図書（雑誌・DVD 等）288 点、一般図書 339 点回収・処分した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き回収活動を実施する。 ・ごみを投入されることがあり、有害図書回収箱であることの周知を徹底する。 		

指標名 ・内容	④家庭訪問の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度家庭訪問は 3 家庭 ・家庭訪問実施件数は 34 件 （ケース会議は 5 回） 		

目 標	・孤立する家庭が1件でもなくなるように福祉部局と連携しながら家庭訪問を実施する。
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度家庭訪問は 9 家庭 ・家庭訪問実施件数は 86 件 (ケース会議は 11 回) ・前年度からの訪問家庭に加え、家庭教育支援チームによる主催講座で依頼を受け相談が始まった家庭が 1 件増えた。
課 題	・家庭教育支援チーム員で担える相談や訪問を福祉部門と連携しながら実施する。

指標名 ・内容	④子育て・親支援講座の充実	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームへの各園・各校・公民館等からの依頼に基づき 99 講座（内自主講座 10 回）を開催した。 ・保護者同士のつながりを実施した。 ・参加者は大人 1,774 名、子ども 1,006 名 		
目 標	・前年度と同様に、家庭教育支援チームによる親支援講座を開催する。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームへの各園・各校・公民館等からの依頼に基づき 85 講座（内自主講座 9 回）を開催した。 ・保護者同士のつながりづくりを実施した。参加者は大人 1,656 名、子ども 911 名 ・前年度に引き続き、保育園・幼稚園・小学校・公民館等から講座の依頼があり、アンケートでは「子育ての疲れを忘れて楽しい時間を過ごせた」という意見も多くあった。 ・今年度の 11 月から、家庭教育支援チーム作成の家庭教育情報誌をこども課の窓口で配布するようになり、より周知をはかれることとなった。 		
課 題	・保育園、幼稚園、小学校、公民館からは継続して依頼があるが、今後はこども園や子育て支援センターとの連携も図っていく。		

指標名 ・内容	⑤児童健全育成の場としての各種事業の実施	担当課室等	社会教育課																				
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童館の事業参加者数は、 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">きしかみ子ども館</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2,760 名</td> <td style="width: 30%;">はらだ子ども館</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1,499 名</td> </tr> <tr> <td>友愛児童館</td> <td style="text-align: center;">2,348 名</td> <td>名古屋児童館</td> <td style="text-align: center;">1,473 名</td> </tr> <tr> <td>移動児童館・体育館</td> <td style="text-align: center;">670 名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">授業</td> <td style="text-align: center;">677 名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>夏休みこどもまつり</td> <td style="text-align: center;">571 名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			きしかみ子ども館	2,760 名	はらだ子ども館	1,499 名	友愛児童館	2,348 名	名古屋児童館	1,473 名	移動児童館・体育館	670 名			授業	677 名			夏休みこどもまつり	571 名		
きしかみ子ども館	2,760 名	はらだ子ども館	1,499 名																				
友愛児童館	2,348 名	名古屋児童館	1,473 名																				
移動児童館・体育館	670 名																						
授業	677 名																						
夏休みこどもまつり	571 名																						
目 標	・子ども館・児童館の事業については、児童生徒数は減少傾向にあるが事業参加数は、例年と同等数を目指して企画する。																						

H28 未成果	<ul style="list-style-type: none"> 各児童館の事業参加者は、(平成 29 年 3 月末現在) きしかみ子ども館 2,811 名 はらだ子ども館 839 名 友愛児童館 2,114 名 名古屋児童館 1,680 名 移動児童館・体育館 718 名 授業 658 名 夏休みこどもまつり 536 名 「どんどこプロジェクト【NPO 協働事業】1,060 名 各館で特色ある事業を企画し、年間計画を基に季節の行事や手作り教室・クッキング等様々な催しを実施した。 移動児童館では、体育館実施・授業共に市内の全 15 小学校で実施し、学校との連携も深まった。 昨年度に実施した「どんどこプロジェクト【NPO 協働事業】で製作した子どもが自ら描く安全啓発の看板は、新橋本中央中学校区に地域の協力も得て設置できた。 今年度も引き続き子どもの安全を願い、隅田中学校区のこども園・小学校・中学校と製作をし、紀北工業高等学校の協力もあって設置でき、学校・地域との繋がりが更に広がった。 夏休みこどもまつりでは、子どもも大人も様々な体験を通して防災・減災知識を確認・共有することができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 友愛児童館については、隣接する伏原第一会館の解体工事に伴い、10 月～1 月の間を閉館したために事業参加者が昨年度に比べて減少している。 はらだ子ども館においては、来館者数の減少に伴い、事業参加者も減少しているが、特色ある事業に取り組み、徐々に回復してきている。 児童館が設置されている地域に偏りがあるために、児童館の無い地域の子どもも利用できる各館の活動に加え、移動児童館や夏休みこどもまつりの実施等で、広範囲な児童館事業を展開し、更に広報に努める。 子ども議会の中学生議員から出た質問を契機に新企画した【RE・RE・リサイクルぱーく】は、リサイクルの大切さを伝え、身近なことから取り組む。 地域子ども会活動の維持が困難になってきている H27 末があり、行事の相談や実施の対応をしているが、更なる活動支援をする。

イ 家庭や学校、地域での人権意識の高揚に努める

指標名 ・内容	①人権プロジェクトによる人権教育啓発資料の作成	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 毎年テーマを考え、リーフレット等を作成・配布している。 平成 27 年度は「ESD」をテーマにリーフレット・クリアファイルを作成し、各小中学校、各公民館等へ配布した。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 作成した資料を各小中学校・各地区公民館へ配布し、授業等で積極的に活用することで人権意識を高める。 		
H28 未成果	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校へ約 5,000 部、各地区公民館へ約 1,800 部、児童館等へ約 500 部リーフレットを配布し、啓発を行った。 配布したリーフレットは、小学校 6 校において道徳の授業時に活用されただけでなく、 		

	地域支援者養成講座においても活用された。
課 題	・今まで「障がい」「防災」「職場」「こども」「言葉」「虐待」「家庭」などをテーマにリーフレット等を作成したが、今後のテーマについても検討していく必要がある。

※ESDは Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

指標名 ・内容	②学校における人権教育の充実	担当課室等	学校教育課
H27 末	・小中学校では、計画的・系統的に幅広く人権課題について学習する機会を設け、豊かな人権感覚の育成に努めている。		
目 標	・各校の状況により計画の見直しを行い、人権教育の更なる充実を図る。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校において人権教育全体計画を作成し、各校の状況に応じて重点課題を定めて人権学習の充実を図ることができた。 ・いじめや人権意識に関する調査を実施し、H27 末把握・改善に努めた。 ・昨年度改訂を行った人権教育副教材「しあわせ」をはじめとする教材・資料を活用するとともに、外部人材からの講話や体験活動等とおして人権学習を進めることができた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の人権意識を高めるため、指導する側の人権感覚を更に高めるとともに新しい人権課題に対しての理解を深める必要がある。 ・今後もいじめに関する調査等の結果に対して学校が一丸となって速やかに対応するよう、引き続き指導する。 		

指標名 ・内容	②仲間づくりの推進	担当課室等	学校教育課
H27 末	・遊びや集団生活の工夫を行い、園・学校生活の中でいざこざや葛藤を経験しながら仲間づくりを進めている。		
目 標	・新しい手法にも取り組んだり、活動内容を見直したりして、よりよい集団づくりを実現する。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・園では子どもの興味・関心を探りながらルールのある遊びやごっこ遊びを工夫し、夢中になって遊んだり、友達とイメージを共有しながら活動したりする中で、友達と積極的に関わろうとする姿や相談しながら遊びを進めようとする姿が見られた。 ・小学生リーダー研修会（県主催、小学校 14 校 33 名参加。）や市内中学校生徒会交流会（橋本市生徒会連絡協議会主催、2 回実施し、6 校延べ 56 名参加。）の企画・運営に参加し、学校のリーダーとしての意識を高めるとともに、他校の児童生徒との交流で経験したことを自校での活動につなげることができた。 ・学級集団での児童・生徒の状況を把握するためアセスメントを実施するとともに、仲間づくり・集団づくりを手助けする手法について学校の要望に応じて研修等を実施した。 		

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・園の少人数クラスについては、異年齢保育を積極的に取り入れ、その中で年齢に応じたいざごぎや葛藤が経験できるよう、遊びの内容を更に工夫する。 ・仲間づくり・集団づくりを推進するために、各校に対する支援を実施する。
-----	--

指標名 ・内容	②異年齢の関わり	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児や高齢者との交流、異年齢保育等を、各園の実情や年齢に応じて計画実施している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・H27 末の取り組みを継続し、自己肯定感や思いやりの気持ちの育ちにつなげる。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児や高齢者との交流を年間計画に位置づけ、実施できた。 ・各園の実情に応じた異年齢保育や異年齢交流を実施し、年下の子に優しく接する年長児の姿が見られた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児や高齢者との交流については、内容の精査と工夫、十分な事前準備の徹底をする。 ・異年齢保育については園児の実態に応じた内容の検討を継続する。 		

指標名 ・内容	③いじめ認知件数の減少と解消率の向上 (いじめの早期発見対応と解消率の向上)	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度いじめ認知件数 352 件、解決件数 351 件、年間 3 回以上のいじめに関するアンケートを実施している。 ・認知した事案に素早く対応し、解決している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止のため、日頃から児童生徒の様子に目を配るとともに、アンケート等で認知した事案に対して素早く対応し解決する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度いじめ認知件数 483 件、解決件数 473 件。 ・年間 1 回以上のいじめに関する研修会を開催した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見対応についての意識は非常に高くなってきている。 ・いじめ認知の基準が学校によってばらつきがあるように感じられる。 ・いじめ認知のあり方等についての研修を実施していく。 		

指標名 ・内容	③いじめの早期発見のためのアンケートの実施総数	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各校年間 3 回のいじめアンケートを実施する。 		

目 標	・ H27 末を維持する。
H28 末成果	・ 各校とも年間 3 回以上いじめに関するアンケートを実施した。
課 題	・ H27 末を維持していくとともに、いじめ認知基準の学校格差を是正する。

指標名 ・ 内容	④各地区公民館にて講演会や映画上映会への参加数	担当課室等	中央公民館
H27 末	・ 講演会の開催のほか、職員研修・学習会への参加、映画上映会を実施した。		
目 標	・ 引き続き精力的に事業に取り組み、公民館全職員の参加を目指す。		
H28 末成果	・ 全国・近畿・県合同の公民館大会、人権研修、交通安全講習会等の各種研修会に精力的に参加することができた。		
課 題	・ 今後も引き続き積極的に参加できるよう、環境を整えていく必要がある。		

ウ 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰）を推進し、道徳性を育てる

指標名 ・ 内容	①各校における道徳教育の年間計画作成とその実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	・ 現行の学習指導要領に基づいた年間計画を作成した。		
目 標	・ 教科化に向けた年間指導計画の作成をする。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各校あるいは、各中学校区において新しい内容項目に沿った年間指導計画を作成する協議を行った。 ・ その際に別葉（各教科との関連）についても作成するよう協議した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進的に取り組んでいる学校については年間計画を作成できたが、その他の学校については 29 年度に作成できるよう準備段階となった。 ・ 29 年度には作成できるようにしたい。 		

指標名 ・ 内容	①道徳の研修会等の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	・ 教科化に向けての研修を年間 3 回程度実施している。		

目 標	・道徳教育指定地域の学校を中心に、公開授業及び研修会を年間 5 回以上実施する。
H28 末成果	・公開授業については 2 小学校、1 中学校において計 3 回、研修会については夏季に 1 回 2 月に 1 回の計 2 回、合わせて 5 回実施することができた。
課 題	・公開授業、研修会への参加人数は 5 回で延べ 183 名、研究先進校の参加が多かったため、その他の学校の参加を増やす必要がある。 ・教科化に向けて、評価についても検討する必要がある。

指標名 ・内容	①基本的な生活習慣の確立	担当課室等	学校教育課
H27 末	・概ね基本的な生活習慣は身につけているが、生活が乱れ落ちて生活できていない児童生徒が増加傾向にある。平成 28 年度全国学力・学習状況調査では、規範意識は全国平均を下回っている。		
目 標	・学校と家庭が連携して、早寝・早起き・朝ご飯の推奨、授業規律の徹底、挨拶運動・清掃活動を推進する。道徳の時間等により規範意識を高める。		
H28 末成果	・生活アンケートを実施し児童生徒の実態を把握した。 ・昨年度と比較すると、「朝ごはんを毎日食べる」「決まった時間に寝て起きる」「学校の決まりを守る」等に向上が見られる。 ・「態度教育」推進の効果が出てきた。		
課 題	・養育力の弱い家庭、不適切な養育を受けている児童生徒が増加してきている。 ・学校だけでなく福祉と連携しながら支援していく。		

指標名 ・内容	②青年リーダーによる研修会の開催、次世代の青年リーダー候補の育成	担当課室等	社会教育課
H27 末	・青年リーダー 31 名（高校生・大学生）中学生ボランティア 24 名（中学生）事業として、「冒険村」「ジュニアリーダー研修」を実施した。		
目 標	・青年リーダー 40 名 中学生ボランティア 30 名 引き続き事業として「冒険村」「ジュニアリーダー研修」を実施する。		
H28 末成果	・青年リーダー：会長が大学生から高校生に代替わりしたが、変わりなく、率先して団体を統率した。 ・子どもたちに対する指導・育成においても、青年リーダーを対象とした研修（火おこし等）をおこなった結果、充実した取組みをおこなうことができた。 ・中学生ボランティア：中学生ボランティアを対象とした研修を行い、リーダーとしての考え方や行動を伝えることができた。		
課 題	・青年リーダーがやりやすい事業環境を確保できない状況にあり、代替案として周辺施設を検討している。 ・青年リーダー、中学生ボランティアともに男子の数が少ない H27 末であるため、男子の会員を増やしていくことが必要である。		

指標名 ・内容	③大人が手本となって態度教育を推進	担当課室等	学校教育課
H27 末	・保育者は言葉遣いや態度においても、子どもの手本となる立場であることを常に意識しながら、子どもや保護者と接している。		
目 標	・園と家庭が連携しながら、保護者が手本となる態度（あいさつ、返事、食事のマナー等）を示し、子どもが身につけられるようにする。		
H28 末成果	・園便りや懇談会等を通じて、保護者の協力が得られるよう働きかけた。 ・園外活動や来園者と接する機会では、保育者が率先して挨拶や会話を交わす姿を見て子どもも親しみを持って挨拶等を交わすことができた。		
課 題	・特別な場だけでなく、毎日の生活の中での保育者の仕草・態度を子どもが習っているということを意識し、保育者同士で互いをチェックし合うようにする。		

エ 地域文化や芸術、スポーツに親しむ場を提供する。

指標名 ・内容	①指定文化財及び埋蔵文化財の保護活用の推進	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・橋本市管内の国・県・市指定文化財登録、登録文化財及び埋蔵文化財の保護・活用に努めている。		
目 標	・指定文化財の増加に努めるとともに、文化財への理解・活用に努める。		
H28 末成果	・平成 28 年 10 月に高野参詣道黒河道が世界遺産に登録された。 ・平成 28 年 3 月 29 日には妙楽寺（東家）鐘楼門を市指定文化財に指定した。 ・これにより世界遺産 1 件、国指定 4 件、国登録 23 件、県指定 29 件、市指定 68 件となった。		
課 題	・これらの文化財を保護し、後世に伝えていくとともに、より広く活用していく。		

指標名 ・内容	①郷土資料館における、地域学習の場としての各種事業の実施	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・常設展示・企画展示、郷土資料館講座を開催し、地域学習の機会を提供している。		
目 標	・展示・講座の内容を工夫し、地域学習の推進を図る。		
H28 末成果	・企画展示、講座等を実施し、本年度の入館者数は 6,972 人となった。		

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進み、雨漏りや電気系統の故障がある。 ・施設の耐震にも問題がある。 ・あさもよし歴史館との統合移転を検討していく。
-----	---

指標名 ・内容	①あさもよし歴史館における、文化財（考古資料）への関心の向上および理解の深化のための各種事業の実施	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・常設展示・企画展示、あさもよし歴史館講座、体験教室を通じて文化財理解に努めている。		
目 標	・展示・講座・体験教室の内容を工夫し、一層の文化財理解に繋げる。		
H28 末成果	・企画展示、講座、体験学習等を実施し、本年度の入館者数は 956 人となった。		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵量が限界となっており、収蔵スペースが求められている。 ・雨漏り等の施設の老朽化が進んでいる。 ・郷土資料館との統合移転を検討していく。 		

指標名 ・内容	②黒河道の世界遺産登録への取り組みの推進	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・高野参詣道黒河道は平成 27 年 10 月に国史跡に指定された。		
目 標	・さらに世界遺産に登録されるよう、地元とともに機運を高める。		
H28 末成果	・平成 28 年 10 月 24 日、世界遺産委員会臨時会合において、高野参詣道黒河道が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」へ他の熊野参詣道、高野参詣道とともに追加登録された。		
課 題	・世界遺産登録が達成されたため、今後は登録資産等の維持管理が責務となる一方、活用に向けていかなければならない。		

指標名 ・内容	③各種事業への参加数	担当課室等	中央公民館
H27 末	・事業がマンネリ化し、来場者数が伸び悩んでいる。		
目 標	・明確なテーマをもって取組み、来場者数増加を目指す。		
H28 末成果	・県展については、ジュニア展が新たに加わり来場者の増加につながった。		

課 題	・各事業にメインテーマを定めて来場者増加につなげていく必要がある。
-----	-----------------------------------

指標名 ・内容	④市民の健康の増進及び、体育の向上を図る取り組み	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・体育施設について、無料施設 4・有料施設 12 の合計 16 施設を貸し出し市民の健康増進及び、体育の向上を促進している。		
目 標	・体育施設の貸し出しについて、広報等で周知し、市民が気楽に運動に取り組めるような環境を作る。		
H28 末成果	・平成 27 年 4 月から 12 月における施設利用者数は、無料施設で 124,839 人、有料施設で 142,939 人であったのに対し、平成 28 年の同時期における施設利用者数は、無料施設で 104,376 人、有料施設で 140,703 人であった。		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と施設利用者数を比較したところ、無料施設と有料施設のいずれも減少している。 ・これは、昨年度に無料施設の南馬場グラウンドで和歌山国体が開催されたことと、今年度で有料施設の橋本市運動公園グラウンドのトラック改修工事が行われたことも利用者減少のひとつの原因となっている。 ・今後は、施設に関する情報など利用者が求めるとされる情報を広報等で発信し、市民が気軽に運動に取り組めるような環境を作る。 		

指標名 ・内容	④ジュニア駅伝上位入賞に向けた取組	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月と 12 月は、土・日曜日に練習を実施。 ・1 月は水・木・日曜日で練習を実施している。 ・平成 27 年度、成績 5 位 		
目 標	・スポーツ推進計画で定めた 3 位を目標とし、選手の力を最大に引き出すよう練習に取り組む		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月と 12 月は、土・日曜日に練習を実施。1 月は水・木・土・日曜日で練習を実施。 ・第 16 回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会に出場し、県内 29 市町中第 6 位の成績であった。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小・中学校の生徒数の減少とともに、各個人の所属するスポーツクラブとの関係から、ジュニア駅伝に出場する選手の確保が困難になってきている。 ・11 月から 2 月上旬まで毎土曜日小学 3、4 年生を対象に走り方教室を実施し、未来の駅伝選手の発掘をしていく。 		

指標名 ・内容	④橋本マラソンの参加人数拡大への取組	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・平成 27 年度、エントリー 2,188 人		

目 標	・ 広く広報活動を行い、スポーツ推進計画で定めた、2,500 人を目指す。
H28 末成果	・ 平成 28 年度エントリーは 1,701 人であった。
課 題	・ 平成 28 年度は前回大会よりも参加者数が大幅に減少した。これは、今大会の開催日が土曜日であったため、他のマラソン大会と重なったことが原因のひとつと考えられる。今回のように開催日が週末となる場合は、大会要項の配布時期を早めるなどの対策をとり、参加者確保に努めて行く。

オ 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。

指標名 ・ 内容	①体験活動を伴った環境学習の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	・ 県緑育推進事業（5 校実施）をはじめとして、各校で実施されている。		
目 標	・ 内容を充実させるとともに実施校数の増加を目指す。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県緑育推進事業の実施校は 8 校 9 学年と増加し、内容の充実を図ることもできた。 ・ 次年度も 12 校 19 学年での実施を計画している。 ・ これ以外にも各校で体験活動を伴った環境学習を実施しており、紀見小学校が地域環境保全功労者表彰（主催：環境省）、あやの台小学校が第 15 回わかやま環境賞（主催：和歌山県）、高野口小学校が第 17 回環境美化教育優良校等表彰（主催：公益財団法人食品容器環境美化協会）を受賞する等、外部からも評価を受けた。 		
課 題	・ 今後も各校での充実した取組が行えるよう、支援を継続していく。		

指標名 ・ 内容	①園外活動、飼育・栽培活動の充実	担当課室等	学校教育課
H27 末	・ 園外活動や飼育・栽培活動の内容を工夫したり、体験したことをごっこ遊び等につなげたりしている。		
目 標	・ 本年度の園児の実態に応じた活動内容の工夫をする。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態に応じた活動内容の工夫ができた。地域との関わりを深めることにもつながった。 ・ 体験したことをごっこ遊びや行事につなげ、楽しむことができた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の実情により、取組頻度や濃度に違いがある。 ・ 子どもの中に育てたい力を確認し、園の実情に応じた可能な限りの取組を検討する。 		

指標名 ・内容	①「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	・「子ども冒険村」の申込者は76名であったが、リーダー数、開催場所の関係で抽選を行い60名に絞った。		
目 標	・前年度と同じ参加人数で実施し、他実施場所の検討を行う。		
H28 末成果	・申込者93名の応募があり、上限を60名から70名まで広げた。 ・安全面も考慮した運営をおこなうことができた。		
課 題	・実施場所のスペースに限りがあるため、旧花園中学校等の周辺施設を検討していく。		

指標名 ・内容	①希少種保護と環境学習の推進	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・希少種ヒメタイコウチの保護について、その方策のための調査を行っている。		
目 標	・希少種ヒメタイコウチの保全方策を策定していく。		
H28 末成果	・県立紀北農芸高校や市内の一部の小学校において飼育の取り組みがはじめられた。		
課 題	・開発により生息地が減少してきている。飼育や生息する市有地での保護を摸索している。		

カ ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。

指標名 ・内容	①（仮称）岡潔記念館の準備	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・岡潔をH.Pで顕彰するとともに、ガバメントクラウドファンディングにより寄付金を募る取組を行っている。		
目 標	・記念館の整備と業績の顕彰に努める。		
H28 末成果	・11月1日～12月20日の期間においてインターネットを通じて岡潔記念館建設に向けてガバメントクラウドファンディングを実施し、12件分で568,000円の寄附金が集まった。		
課 題	・記念館建設に向けて第2回目のガバメントクラウドファンディングを実施したが、昨年度より寄附者数が減少した。 ・この先2年間は同様にガバメントクラウドファンディングを実施する予定となっており、今後はこの取り組みに賛同いただける方に向けて広く周知して行く必要がある。		

※ガバメントクラウドファンディングとは、不特定多数の人が、通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力など行うことを言います。

指標名 ・内容	①岡潔博士顕彰事業の推進	担当課室等	中央公民館
H27 末	・名誉市民「岡潔」顕彰講演会を開催した。来場者約 200 名。		
目 標	・顕彰講演会を開催し、来場者数の増加のため、広報活動に努める。		
H28 末成果	・岡潔博士の関係者を招いた講演会を開催し、約 230 名の来場があった。		
課 題	・今後も趣向を凝らした講演会の開催に工夫していく必要がある。		

指標名 ・内容	①前畑秀子 NHK 朝ドラの放送を目指す	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	・朝ドラ誘致実行委員会を立ち上げ、情報収集、署名活動、関係機関への協力依頼等を行っている。		
目 標	・前畑秀子に所縁の地である名古屋市、岐阜市との連携を図り、朝ドラ誘致に向けての活動を広く展開する。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全国「ガンバレの日」イベントや「オリンピック優勝前畑秀子 80 周年・古川勝 60 周年記念講演会&シンポジウム」などと連携しながら朝ドラ誘致 P R 活動を展開した。 ・名古屋市で開催された「千種区民まつり」や「スポーティブライフ in 瑞穂」でも朝ドラ誘致 P R 活動を行い、1,300 人を超える賛同署名を得た。 ・3 月末現在、橋本市の集めた署名数は 55,696 人。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・2019 年 NHK 大河ドラマでオリンピックがテーマとなるとの決定を踏まえ、橋本市・名古屋市・岐阜市が連携して、大河ドラマと朝ドラの両輪で 2020 年東京五輪・パラリンピックをより盛り上げる気運の醸成を図る取組が必要である。 ・賛同署名と前畑エピソード集は NHK へ 2017 年中に届ける予定である。 		

指標名 ・内容	②「ふるさと学習副読本」の作成	担当課室等	学校教育課
H27 末	・「ふるさと学習副読本」作成委員会を立ち上げ、会議を 5 回行った。		
目 標	・「ふるさと学習副読本」(データ版)を完成させる。		
H28 末成果	・計 5 回の会議を行い「ふるさと学習副読本」(データ版)を完成させることができた。		
課 題	・もう少し内容を増やしさらに充実した副読本にしたい。(来年度改訂版作成予定)		

指標名 ・内容	②ふるさと学習実施カリキュラムの作成	担当課室等	学校教育課
H27 末	・ふるさと学習を、各校、年間5時間以上実施することが決定している。		
目 標	・各学年、1つ以上の教材について、カリキュラムを作成する。		
H28 末成果	・中学校区ごとの部会で、年間カリキュラム作成について協議をし、大まかな計画を作成することができた。		
課 題	・副読本の作成に時間がかかり、年間カリキュラムを完成させることができなかった。 (次年度に完成予定)		

(2) 多様な学びと健やかな体を育みます

ア 基礎学力を基盤とし、主体性のある学びを推進する。

指標名 ・内容	①各校における(市)標準テストの経年変化及び課題への対応	担当課室等	学校教育課
H27 末	・平成27年度から始まった。 ・橋本市としての課題を明らかにし、対応策を検討した。		
目 標	・平成28年度も4月に実施し、課題を明らかにするとともに、12月実施の(県)学習到達度調査で県平均を上回る。		
H28 末成果	・4月に実施した(市)標準テストを各校で分析してもらい、課題解決に向けての方策を考え、実践してもらった。		
課 題	・(市)標準テストの経年変化については、小学校では上昇傾向である。 ・中学校についても若干上昇傾向であるが、全国と市との差は大きい。 ・授業改善と家庭学習を充実させることでさらに上昇させたい。		

指標名 ・内容	①各校における授業改善の取組の把握と指導の充実	担当課室等	学校教育課
H27 末	・毎年、各校において研究授業等の授業公開が行われている。 ・自主研究発表会を開催する学校もあった。 ・授業改善のための校内研修を行ったり、校外研修に参加したりしている。		
目 標	・学校訪問等で授業を参観し、各校の取組の実態把握をするとともに、児童・生徒の主体的な学びとなるよう指導を行う。		

H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問の参観では、※和歌山の基礎・基本3か条をベースに、めあての提示（ほぼできていた）、ふり返りの時間の確保等改善が見られた。 ・ペア・グループ学習を取り入れた授業が増え、児童・生徒が主体となる場面が設定されつつある。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善として、机の配置、ペア・グループ学習の導入等、学習形態の工夫をもっと多くの学校で取り入れるよう指導する必要がある。 ・中学校の授業において、板書計画を工夫するよう指導する必要がある。

※和歌山県教育委員会から提案された授業展開（めあて・考える時間・まとめ・ふりかえり）

指標名 ・内容	①各校における家庭学習時間の把握と啓発	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において児童・保護者アンケート調査を行い実態把握した。 ・教育委員会でリーフレットを作成し、各家庭に配付し、啓発した。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の家庭学習が定着し、学習時間が長くなるようチラシ等を使って啓発する。 ・アンケート調査等で好結果を目指す。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に「家庭学習のすすめ」のチラシを、各家庭に配付し、2月には「家庭学習に励もう」のポスターを各校に配付することで啓発した。 ・家庭学習推進プロジェクトチーム（小・中教員13名）を発足し、改善策を協議した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から小6と中3の状況は把握できたが、その他の学年については把握できなかった。 ・次年度は対象学年以外の状況把握にも努めるとともに、市内で統一した家庭学習の取組を提案したい。 		

指標名 ・内容	①遊びの環境構成の工夫	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を探りながら、主体的に遊ぶための環境構成の工夫を行っている。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き主体的に遊ぶための環境構成について研究し、充実を図る。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問の機会を生かし、こども園・保育園・幼稚園の公立園の保育者が互いの保育を見学し、環境構成についても協議できた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・物的環境の充実は、園の実情によるところがあるが、ねらいを明確にしながら、様々な方法を工夫する。 		

指標名 ・内容	②体育授業の交流	担当課室等	学校教育課
H27 末	・校内研修として授業交流はあるが、学校間では実施されていない。		
目 標	・校種、学校間を超えて授業交流会を年間3回程度実施する。		
H28 末成果	・授業交流会を1回実施した。		
課 題	・年間3回実施という目標を達成できなかった。 ・来年度は目標を達成できるように各学校にはたらきかけていく。		

指標名 ・内容	②発達年齢に沿った体力づくり	担当課室等	学校教育課
H27 末	・運動遊びや散歩など、年齢に応じた計画を立て、実施している。		
目 標	・H27 末の取り組みを継続する中で、子ども一人一人の実態を見極め、それぞれに応じた運動発達を促す。		
H28 末成果	・楽しみながら意欲的に取り組める運動遊びを工夫し、一人一人に応じた丁寧な関わりをした。		
課 題	・自己肯定感を保ちながら、いろいろな運動遊びに挑戦しようとする気持ちを育てる。		

指標名 ・内容	③「ブラッシュアップ講座」「教育フォーラム」等の研修会を開催	担当課室等	学校教育課
H27 末	・毎年、「ブラッシュアップ講座」「教育フォーラム」の研修会を実施している。 ・「ブラッシュアップ講座」については、参加者が少ない。		
目 標	・「ブラッシュアップ講座」については、参加者を増やすこと、「教育フォーラム」については、内容を工夫することを目指す。		
H28 末成果	・「ブラッシュアップ講座」については、多様な講師を活用と教員間のネットワークづくりを促進するため、伊都地方教育長会、紀北教育支援事務所と連携して、伊都地方1市3町が合同で研修を開催した。 ・「教育フォーラム」については、全体会399名、分科会419名が参加した。本年度は7分科会を各課室が担当し、多様なテーマで開催することができた。		
課 題	・「ブラッシュアップ講座」では、開催時刻や内容を工夫して参加人数の増加に努めたが、他の公務や出張等の関係もあり参加人数を増やせなかった。 ・「教育フォーラム」については、分科会を充実させることは重要であるが、各課室館の負担も考え、全体会（講演）と分科会を各年に行うようにしたい。		

イ 学校・公民館を通して、多様性・共同性の学びを推進する。

指標名 ・内容	①隅田中学校区における「共育コミュニティ」の立ち上げ	担当課室等	社会教育課
H27 末	・現在、高野口中学校区、旧学文路中学校区、紀見東中学校区の3箇所で開催している。		
目 標	・平成 28 年度は隅田中学校区に「共育コミュニティ」を立ち上げ、引き続き他地区での立ち上げを検討する。		
H28 末成果	・隅田中学校区で「共育コミュニティ」を開始し、3名のコーディネーターで実施。 ・「共育コミュニティ」の全地区実施に向けて、全体設計について検討を行った。		
課 題	・橋本市生涯学習推進計画では、公民館単位での設置を重点施策にしているが、中学校区単位での設置方針との整合性を図る必要がある。		

指標名 ・内容	①ESD を推進するため、研修会等の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	・平成 27 年度は、ESD を理解するための研修会を1回実施した。		
目 標	・研修会等を1回以上実施し、ESD 理解を深める。		
H28 末成果	・地域支援者養成講座で10月21日にESDについての研修会を実施した。		
課 題	・市職員対象のESDの研修会を実施する必要がある。 ・地域でのESD認知度を上げるため、人権啓発で作成したパンフレット等を活用して市民向けの研修会を実施する必要がある。		

指標名 ・内容	①地域を創る話し合いの場づくりの積極的な展開	担当課室等	社会教育課
H27 末	・平成 27 年度は、3館で各1回、1館で4回実施		
目 標	・社会教育の根幹となる地域住民の参加をより一層促していく。 ・実施回数は全館で1回以上実施を目指す。		
H28 末成果	・共育ミニ集会や地域での学校間の交流会を実施。 ・公民館での主催事業においても話し合いの場づくりを取り入れた活動を実施した。		
課 題	・公民館に対して話し合いの場づくりについての依頼が出来ず、自主的な活動に依存した。 ・各地区公民館の活動に連動して話し合いの場として実施してもらえよう協議を行う。		

指標名 ・内容	②「すこやか橋本 まなびの日」イベント内容の充 実 多くの参加者の確保	担当課室等	社会教育課
H27 末	・参加者に加え参加団体も年々増加している。		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・当日参加者 3,000 人を目指し、教育と福祉が連携して取り組む。 ・実施スペースも限定されることから効率のいい出展を検討する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度「すこやか橋本 まなびの日」は雨にもかかわらず当日参加者 3,000 人の目標を達成することができた。 ・実施スペースについては大中小から選択してもらうことで効率化を図ることができた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの準備、後片付けまで参加する団体が少ない。 ・団体数が毎年増加しているので今後は参画団体数に上限を設ける可能性がある。 ・その時の判断材料にイベント協力度等について検討する。 		

指標名 ・内容	③地域住民がふれあえるイベントの実施数	担当課室等	中央公民館
H27 末	・各館で盆踊り大会等のイベントを実施している。		
目 標	・引き続きより魅力あるイベントの開催を増やしていく。		
H28 末成果	・各館で夏祭り等を開催し、多くの来場者で賑わった。		
課 題	・天候に左右される事業であるので、見極めが困難である。		

ウ 保育園・幼稚園・こども園・小学校の連携及び小中一貫教育の充実に努める。

指標名 ・内容	①研究保育への参加	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各園の研究保育を公開し、園教職員間の参加交流が行われている。 ・園と小学校職員の保育・授業参観交流も実情に応じた方法で実施されている。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの研究保育に積極的に参加し、保育園・幼稚園・こども園、学校の職員が就学前の保育・教育のあり方について共に考える。 		

H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問の機会を利用して、こども園・保育園・幼稚園の教職員が熱心に協議した。 ・参加職員のべ人数は、こども園より 11 名、保育園より 51 名、幼稚園より 17 名であった。 ・小学校教員の参加はなかったが、小中学校担当の主任指導主事による園訪問を、これまでの幼稚園・保育園に加え、こども園にも実施した。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・入学予定児の引継ぎ等、全園、小学校教員と話し合う機会があるが、保育・授業参観等の実施は様々である。 ・各園・学校の実情を踏まえた上で、更に連携を深める方法を探る。

指標名 ・内容	②各中学校区において、小中連携型の一貫教育の推進	担当課室等	学校教育課
H27 末	・3 中学校の統合があり、橋本市内全中学校区が連携型の小中一貫教育となった。		
目 標	・全中学校区において、小中一貫教育の 4 要件（1. 小中で連携した教育目標の設定 2. 教育課程及び指導内容・方法並びに形態の連続性 3. 児童生徒の活動の連続性 4. 教職員間の連携）を満たす取組を行う。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校区において、教育目標をはじめ、特定の教科（道徳等）において連携や連続性がみられた。 ・児童生徒の活動についても連続するよう協議し、実践している中学校区もあった。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・4 要件のいずれについてもさらなる連携を進め、義務教育 9 年間を見通した取組を進めていく必要がある。 ・中でも、教育課程の連続性、教職員間の連携については、もっと強化しなければならない。 ・今後、共育コミュニティのなかで、地域と連携しながら、保育園、幼稚園、子ども園、小学校、中学校の連携を推進していきたい。 		

エ より良い学びの場のための教育環境を整える。

指標名 ・内容	①計画的な大規模改修の実施	担当課室等	教育総務課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度事業費 工事設計監理委託費 6,642 千円 工事費 12,782 千円 合計 19,424 千円 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・H27・H28・H29 で応其小学校 ・H28・H29 で学文路小学校において行う。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度は、応其小学校校舎の教室の黒板・掲示板・ロッカー等の整備、放送設備改修、防火戸改修等を行なった。 ・学文路小学校は、落下しかけていた体育館の天井断熱材の撤去を行なった。 		

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修にあたり、国庫補助の採択が難しくなり、H28 年度当初は不採択となったため予定していた改修の全てができなかった。 ・国の補正予算で採択されたため、平成 29 年度に繰り越して実施できることとなったが、今後も国庫補助の採択は厳しい状況です。 ・築後 30 年以上経過した学校も多く、改修が急がれるところですが、市財政が厳しく、2 年で 1 校の改修予定で進めざるを得ない状況です。
-----	---

指標名 ・内容	②国の基準に基づいた就学援助の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度決算額 小学校 要保護 25,581 円 準要保護 27,499,116 円 中学校 要保護 0 円 準要保護 23,799,293 円 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な援助を平等に支給出来る方法を探る。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度（平成 29 年 3 月 31 日現在）は小学校 要保護 9 名・準要保護 408 人 中学校 要保護 1 人・準要保護 232 人を認定した。 （市立小・中学校全児童生徒の 16.37%） ・平成 28 年度は、市立小学校の特別支援学級全 144 人中 準要保護児童生徒援助費に 33 人、特別支援教育就学奨励費に 99 人を認定した。 ・市立中学校の特別支援学級全 50 人中 準要保護児童生徒援助費に 12 人、特別支援教育就学奨励費に 27 人を認定した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保護者、事務局が連携を図り、必要に応じて適切な補助が行えるようにする。 ・児童生徒の様子だけでなく、家庭状況にも目を向け、素早く対応できるよう心がける。 		

指標名 ・内容	③学校長との面談	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・年間 2 回学校目標についての校長面談を行っているが職員の健康管理を重視したものではない。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の健康管理について校長面談の内容に盛り込む。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・5 月と 1 月の校長面談では、職員の健康管理についてのヒアリングを行い、職場環境の状況を掴むことができた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健康についての自己管理を啓発するとともに職場での相談体制を充実させる必要がある。 		

指標名 ・内容	③がん教育の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	・平成 27 年度に、伊都医師会と共同で教材作成し、試験的に 2 小学校で実施した。		
目 標	・全市立小学校で、がん教育を実施する。		
H28 末成果	・伊都医師会医師による出張授業を全市立小学校で実施した。		
課 題	・来年度も引き続き全市立小学校でがん教育に取り組む。		

指標名 ・内容	④非常勤講師等の活用状況の把握	担当課室等	学校教育課
H27 末	・学校長からのヒアリングをとおして把握している。		
目 標	・非常勤講師等の活用状況を確認するために配置校の訪問を行う。		
H28 末成果	・配置校すべてを訪問し、非常勤講師（38 名）の効果的な配置を確認することができた。		
課 題	・非常勤講師を必要とする学校が多く、対応するための講師確保が大きな課題である。		

オ 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・ICT・国際理解）を推進する。

指標名 ・内容	①総合的な学習の時間の実施状況把握と指導の充実	担当課室等	学校教育課
H27 末	・各校において、年間指導計画を作成して取り組んでいるが、ESD の視点に取り組んでいる学校は少ない。		
目 標	・ESD の視点で、総合的な学習の時間を実施する学校を増やす。 ・そのための研修会を実施する。		
H28 末成果	・積極的に研修会を実施することはできなかったが、奈良教育大学 ESD コンソーシアムの行う研修（3 回）への参加を促し、毎回 10 名程度参加した。 ・そのことで、ESD の視点で総合的な学習の時間を実施できることを学べた。		
課 題	・小学校は積極的に実施している、あるいは実施を考えている学校が増えてきたが、中学校については実施している学校はまだない。 ・年間計画表を見直すことから ESD の視点をどう組み込むのかを検討してもらう必要がある。		

指標名 ・内容	②ESD を推進するため、研修会等の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	・平成 27 年度は、ESD を理解するための研修会を 1 回実施した。		
目 標	・研修会等を 1 回以上実施し、ESD の理解を深める。		
H28 末成果	・橋本市 ESD 連続セミナー（5 回完結型）を実施し、13 名の教員が参加した。 ・教育フォーラムの 1 分科会として ESD について研修した。		
課 題	・現在先進的に取り組んでいる学校は 4 校で少ないため、もっと市全体に広める必要がある。 ・そのためには学校長研修会を開催し、理解を深めてもらう必要がある。		

カ 読書活動の推進に向けて環境を整える。

指標名 ・内容	①朝の読書の時間の確保	担当課室等	学校教育課
H27 末	・小学校 8 校・中学校 2 校で確保している。		
目 標	・小学校 10 校以上、中学校半数以上を目指す。		
H28 末成果	・小学校では 1 2 校が時間の確保ができているが、中学校では時間確保できている学校はなかった。		
課 題	・小学校では、週当たりの実施日数を増やすとともに、内容の充実を図る。 ・中学校で時間を確保してもらえよう働きかけをする。		

指標名 ・内容	①学校図書館の開放日数・時間	担当課室等	学校教育課
H27 末	・ほとんどの小・中学校で開放されているが、日数・時間は様々である。		
目 標	・すべての小・中学校で毎日昼休憩の開放を目指す。		
H28 末成果	・毎日ではないが、開放はすべての学校でされている。		
課 題	・毎日、どこかの時間での開放を目指す。		

指標名 ・内容	①各園の実態に応じた具体的目標の設定と取組	担当課室等	学校教育課
------------	-----------------------	-------	-------

H27 末	・各園において実態に応じた目標を設定して取組み、反省と課題を出している。
目 標	・各園、前年度の反省と課題を踏まえながら実態に応じた目標を設定し、取組状況を報告し合い、充実につなげる。
H28 末成果	・各園では、子どもの実態を踏まえて重点目標を設定して取り組んだ。また、園長会で情報交換を行い、子どもが絵本や物語に親しむことの大切さを確認した。
課 題	・子どもの実態（興味・関心・発達）と育てたい力を確認しながら、取組を継続する。

指標名 ・内容	①各学校の蔵書データが他校でみられる環境整備	担当課室等	学校教育課
H27 末	・各学校の蔵書データは作成できている		
目 標	・すべての小・中学校で他校の蔵書データが見られるよう整備する。		
H28 末成果	・整備は進んでいない。		
課 題	・目標達成に向けて予算確保も含め、引き続き整備を進める。		

指標名 ・内容	①市内中学校・高等学校との連携	担当課室等	図書館
H27 末	・市学校長会議、図書館教育担当者会議に出席している。		
目 標	・機会をとらえて図書館活動を周知し、生徒の読書意欲の喚起を図るとともに、積極的な参画を促す。		
H28 末成果	・ビブリオバトルを継続して開催した。 ・高校平和学習への協力が高校生の図書館ボランティア活動の拡大につながった。		
課 題	・調べる学習をとおして図書に対する関心を高め、利用促進につなげたい。		

※知的書評合戦、5～6名のバトラーがそれぞれお薦めの本を5分間紹介し、その後2～3分参加者全員でディスカッションし、どの本を一番読みたくなったかを投票し最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

指標名 ・内容	②図書館利用者の拡大	担当課室等	図書館
H27 末	・227,019冊を貸し出し、350名の見学者、職業体験実習生を受け入れている。		
目 標	・主催行事の充実と各園・学校との連携により、図書館利用数値を増やす。		

H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたる内容により、主催行事への参加者が増加した。 ・新設した英語読書会員が、回を追う毎に多くなっている。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な年代の未利用者にも興味を持って参加してもらえるよう、講座内容を検討工夫していきたい。

指標名 ・内容	②保護者への啓発	担当課室等	図書館
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵本読み聞かせ会」を毎週土曜日に、「あかちゃんと絵本のひととき」を月1回実施している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関・団体とともに、幼児の保護者向けの講座を開設、充実させる。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の保育園や公民館からの要請を受けて、親子見学会を定期的開催した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館について知る機会を、計画的に設ける。 		

指標名 ・内容	②積極的・効果的な広報活動	担当課室等	図書館
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報・図書館報・館内チラシ・HPなどで主催行事等を掲載している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・広報内容を精選し、市民に役立つ情報発信に努める。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面飾りや納涼お話会などが市民から高い評価を得て、地方広報紙によって広く発信された。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・地方広報紙やマスコミのさらなる活用を図っていきたい。 		

指標名 ・内容	②ユニバーサルデザインを取り入れた図書館	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校でだれもが利用しやすい図書館として工夫しているが、整理や分類が乱雑な学校が数校ある。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが利用しやすいすっきりとした学校図書館の整理、図書の分類を行う。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの学校は学校図書の整理、分類ができている。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・分類が見やすいように各学校で背ラベル等の統一を進めていく等、整理・分類だけでなく、利用のしやすさに重点を置いていく。 		

指標名 ・内容	②ボランティアの活用	担当課室等	社会教育課 学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアが入っている学校は12校。 ・学校とつながっているが、図書スタッフとの連携はできていないところが多い。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や図書スタッフとうまく連携し協働して活動できる工夫をする。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアが入っている学校は13校。 ・図書スタッフ発行の図書館たよりを2回発行し、学校との連携を図った。 ・図書ボランティアへの参加啓発に向けて、地域支援者養成講座を実施。講座受講者から要望があり、学校への連絡を行うことで活動の場所提供支援を実施した。 (社会教育課) ・ボランティアの訪問日と図書スタッフの訪問日を重ねることで、連携できた。 ・ボランティアと図書スタッフ、学校が連絡し合えるノートを活用した。 (学校教育課) 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書スタッフとの連携については、各校の訪問時に合わせた活動が必要である。 ・ボランティア参加者の啓発を実施していく。(社会教育課) ・まだまだうまく連携し協働できる方法・内容があるので、さらなる工夫とそれぞれの意識を高める。(学校教育課) 		

指標名 ・内容	②市民のニーズに合った図書館運営	担当課室等	図書館
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出・相互貸出・レファレンスサービス・宅配サービスの外、リクエスト用紙・予約用紙を常備している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声を図書館運営に反映させるべく、アンケートや各種サービスを充実させる。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・筆談ボードを設置した。和歌山県フリーWi-Fiが利用できるようになった。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の選定や整理・宅配サービスの在り方等貴重な意見に基づき、今後の検討が必要である。 		

キ 文化施設・社会体育施設（学びの場とスポーツに親しむ場）の充実に努める。

指標名 ・内容	①市民ボランティアへの支援	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア登録者のうち活動内容が「子ども・教育」の方341名 		

目 標	・各公民館とそこで活動するボランティアに有益な情報を提供し、活動の活性化を図る。
H28 末成果	・平成 29 年 3 月 31 日現在、市民ボランティア登録者のうち活動内容が「子ども・教育」の方の活動回数は延べ 2,736 回
課 題	・平成 29 年度から指標名・内容を市民ボランティアのみでなく、一般のボランティアを含めた形で提示する。

指標名 ・内容	②出前サービスの充実	担当課室等	図書館
H27 末	・移動図書館「ブッキー号」を延べ 8,281 名の市民が利用している (28,344 冊貸出)。		
目 標	・月 1 回の定期的な巡回により、利用者、貸出冊数の増加を目指す。		
H28 末成果	・今年度からブッキー号に同行している学校図書スタッフをとおして、本の収集など各校の要望に応えることができた。		
課 題	・団体貸出未実施校、学童保育、地区公民館の利用を図る。		

指標名 ・内容	②読書環境の整備	担当課室等	図書館
H27 末	・日本十進分類法による分類をはじめ、利用者年代別展示や季節ごとの特集コーナーなどを導入している。		
目 標	・閲覧コーナー、学習コーナーともに整備充実させ、市民すべてのニーズに対応できるようにする。		
H28 末成果	・真田幸村、東山篤規氏、黒河道の世界遺産登録等橋本市にまつわるコーナーや、ビブリオバトルコーナーを充実させることができた。		
課 題	・利用者へのマナーの周知、閲覧スペースの確保に努める。		

指標名 ・内容	③中央並びに地区公民館のスポーツ大会や健康増進行事への参加者数	担当課室等	中央公民館
H27 末	・グラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレーボールや健康体操などを実施している。		
目 標	・参加者数、前年比 10%増を目指す。		

H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会や健康増進行事への参加者数を H28 と H27 で比較すると、13.3%の伸びを示したが、市民グラウンドゴルフ交流会は、悪天候により 2 年連続して中止となった。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ交流会については、開催時期について今一度検討が必要であるが、健康志向の高まりから各行事への参加は増加している。

指標名 ・内容	③市民ニーズに応じたスポーツのしやすい環境整備	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・有料施設 12、無料施設 4 の合計 16 施設について貸し出しを実施している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者等のニーズに応じて、可能な限り用具等の充実を図る。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、橋本市運動公園グラウンドのトラック改修工事、住吉運動公園グラウンドのサイドネットの修繕、学文路スポーツセンターのテニスコートの部分修繕などを実施し、施設のメンテナンスに努めた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者が怪我することのないよう細心の注意を払い、事前点検等を今まで以上に行うなど、施設の延命化に努める。 		

指標名 ・内容	③スポーツイベントを通じた地域交流会の促進	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなスポーツイベントとして、毎年 10 月に市民総体、2 月に橋本マラソンを実施している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントを開催する際に、参加する人・見る人・支える人等が大会を通じて交流できるような仕組みの構築を目指す。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度においては、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催されたことに伴い、パブリックビューイングを実施して市民交流を図った。 ・スポーツ少年団・体育協会などの団体と連携を取りスポーツイベントを開催した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者が多くなるにつれ、参加者同士の怪我や駐車場確保の問題点などをどのように防ぐかを考えていかなければならない。 		

指標名 ・内容	③身体能力や技術力の向上を目指す組織作り	担当課室等	文化スポーツ室
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関する組織として、体育協会 23 団体・スポーツ推進員 19 人・スポーツ少年団 42 団体が存在する。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会・スポーツ推進員・スポーツ少年団との連携を強化し、指導者・選手の育成に努める。 		

H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団体力づくりや市のスポーツイベントに協力し、指導者・団員の育成に努めた。 ・スポーツ少年団理事会・総会等を開催。体力づくり&交流会、研修会等も実施し、指導者、団員の育成に努めた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、年配者のスポーツへの関心度が強く、子どもから年配者まで楽しめる交流イベントを進める。 ・市内の小・中学校の生徒数の減少に伴い、各スポーツ少年団加盟の団員数も減少している。 ・スポーツ少年団広告チラシを作成する等団員獲得に努める。

ク 食の大切さの学びを推進する。

指標名 ・内容	①学校給食の献立表を工夫し食に関する情報発信	担当課室等	学校給食センター
H27 末	・橋本・高野口学校給食センターが献立表を作成している。		
目 標	・H27 末としても工夫しているが、さらに工夫をした献立表を作成する。		
H28 末成果	・食材やマナーなど食に関する様々な情報を掲載した献立表を配布した。児童・生徒全員に給食実施月初めに献立表を配布した。		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き献立表を通じ食に関する情報を発信する。 ・本市の LINE（ライン）を活用して献立表を幅広く活用できるようにする。 		

指標名 ・内容	①栄養士等による「食に関する指導」の実施	担当課室等	学校給食センター
H27 末	・毎年、市内 6 年生全員にバイキング給食を、また 2 校で給食時に「食に関する指導」を実施している。		
目 標	・本年度も、例年通りの指導を実施することで、児童・生徒の食に関する意識を高める。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 15 校の 6 年生に事前授業を行い、バイキング給食を実施した。 ・地場産食材活用推進のため橋本小学校と信太小学校で給食時に生産者との交流会を実施した。 		
課 題	・引き続き食に関する指導を実施し、児童・生徒の食に関する意識を高める。		

指標名 ・内容	①給食試食会の実施	担当課室等	学校給食センター
H27 末	・毎年、市内小学校 1 年生保護者による給食試食会を実施している。		

目 標	・本年度も実施し、保護者の学校給食についての意識を高める。
H28 末成果	・市内小学校 1 年生の保護者を対象に給食試食会を実施し、センターの施設概要、学校給食の内容・目標・安全について説明し、意見交換を行った。
課 題	・引き続き給食試食会を実施し、保護者の学校給食についての意識を高める。

指標名 ・内容	①市管理栄養士による園訪問（観察・指導）や職員・保護者対象の給食講座の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	・平成 27 年度は、公立園（公設民営園を含む）16 園中、7 園で実施している。		
目 標	・平成 27 年度末実施園での実施を目指す。		
H28 末成果	・昨年度未実施である 4 園（こども園：1・保育園：2・幼稚園：1）を含む 8 園（こども園：1・保育園：6・幼稚園：1）で実施した。なお、昨年度から継続の 4 園については内容を充実して実施した。		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズと園児の喫食状況をより細やかに把握する ・保育者による食事介助と衛生管理等に対する共通認識を徹底する。 ・未実施園で実施する。 		

指標名 ・内容	②食物アレルギー対応についての検討会の開催	担当課室等	学校給食センター
H27 末	・平成 27 年度に、学校給食審議会からの答申を受け、学校給食における食物アレルギー対応基本方針を作成した。		
目 標	・平成 30 年度末開始の新給食センターにおける食物アレルギー対応に向けて、計画づくり及びマニュアル作成を行う。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度は、新給食センターにおける食物アレルギー対応マニュアル作成のための委員会を 15 回開催した。 ・年度末にマニュアル完成予定。 ・新給食センターでは、卵除去食を提供することに決定した。 		
課 題	・学校との連携を密にし、内容をより充実したものにする。		

（3）地域・家庭・学校の連携を育みます

ア 公民館単位で「共育コミュニティ」を組織し、地域の活性化を推進する。

指標名 ・内容	①隅田中学校区における「共育コミュニティ」の立ち上げ	担当課室等	社会教育課
H27 末	・現在、高野口中学校区、旧学文路中学校区、紀見東中学校区の 3 箇所で開催している。		

目 標	・平成 28 年度は隅田中学校区に「共育コミュニティ」を立ち上げ、引き続き他地区での立ち上げを検討する。
H28 末成果	・隅田中学校区で「共育コミュニティ」を開始し、3名のコーディネーターで実施。 ・「共育コミュニティ」の全地区実施に向けて、全体設計について検討を行った。
課 題	・橋本市生涯学習推進計画では、公民館単位での設置を重点施策にしているが、中学校区単位での設置方針との整合性を図る必要がある。

指標名 ・内容	①地域共育コミュニティ形成促進事業	担当課室等	社会教育課
H27 末	・現在、高野口中学校区、旧学文路中学校区、紀見東中学校区の3箇所で開催している。		
目 標	・事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。		
H28 末成果	・「共育コミュニティ」の全地区実施に向けて、全体設計について検討を行った。		
課 題	・橋本市生涯学習推進計画では、公民館単位での設置を重点施策にしているが、中学校区単位での設置方針との整合性を図る必要がある。		

指標名 ・内容	①放課後子ども教室推進事業	担当課室等	社会教育課
H27 末	・年間実施延べ回数 449 回 ・参加児童延べ人数 7,063 名		
目 標	・事業の実態形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。		
H28 末成果	・3月31日現在 ・実施延べ回数 582 回 ・参加児童延べ人数 9,118 名		
課 題	・平成 28 年度は他事業への振分けにより回数、児童数が共に減少している。平成 29 年度は事務作業の効率化を図るため、放課後子ども教室推進事業と土曜日等子ども教室推進事業を統合する。		

指標名 ・内容	①土曜日等子ども教室推進事業	担当課室等	社会教育課
H27 末	・年間実施延べ回数 398 回 ・参加児童延べ人数 6,934 名		
目 標	・事業の実態形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。		

H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3月31日現在 ・実施延べ回数 231回 ・参加児童延べ人数 3,235名
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は他事業への振分けにより回数、児童数が共に減少している。平成29年度は事務作業の効率化を図るため、放課後子ども教室推進事業と土曜日等子ども教室推進事業を統合する。

イ 地域の教育力を学校教育に生かすために、学校開放に努める。

指標名 ・内容	①各校の学校評価分析と支援の充実	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、前年度における各校の学校評価を分析し、次年度に活かせるよう支援を行っている。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度における各校の学校評価を分析し、本年度の学校運営に活かせるよう支援を行う。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の学校評価は、全体的に見て、保護者や評議員等からは高評価を得ている。 ・評価の低かった項目については、各校にて改善策を考え実践するよう指導した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の低かった項目として、地域・家庭との連携が挙げられる。コミュニティースクール化を進めることが大切であると考えられる。 ・共育コミュニティー設置についても推奨し支援していきたい。 		

指標名 ・内容	②各校における H.P や学校だよりによる学校評価の公表	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、学校だより等の紙媒体での公表が行われており、H.P での公表については半数以下である。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体での公表は100%、H.P での公表については半数以上を目指す。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体での公表については、保護者への通信として全ての学校で公表または公表する予定である。 ・H.P については平成28年度の結果を20校中13校(65%)が公表、または公表予定である。 ・公表については、紙媒体・H.P ともに目標を達成できた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後はH.P での公表について80%以上を目指したい。 		

指標名 ・内容	②園便りやH.P 等による情報発信	担当課室等	学校教育課
------------	-------------------	-------	-------

H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 各園では、園便りや通信を通じて保護者に情報発信している。 H.Pについては、幼稚園と公設民営園で実施している。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 各園の実情に応じた方法で、保護者や地域の人に分かりやすい伝え方の工夫をする。
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・公設民営園のH.Pは、リアルタイムの情報が伝わるよう頻繁に更新した。 園便りや通信では、子どもの具体的な姿から、園の保育方針を感じ取れるよう工夫した。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 保育園のH.Pの実施を考える。 情報発信は、一方通行にならないように、保護者や関係者の声を反映させる方法を探る。

指標名 ・内容	③学校開放検討会議の開催	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、校長会代表と教育委員会で3回協議の場を設けた。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 検討会議を開催し、学校開放のための方針を作成する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> 検討会議は開催していないが、学校施設開放について、校長会で方針や運用の提案をし、協議を行った。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ルールに則り、今後も学校運営に支障のない範囲で、施設開放を行う。 学童保育についても学校と積極的に連携をとりながら、運営支援を行う。 		

指標名 ・内容	④市民ボランティアの活用	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 市民ボランティア登録者のうち活動内容が「子ども・教育」の方は、341名だった。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 各公民館とそこで活動するボランティアに有益な情報を提供し、活動の活性化を図る。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月31日現在、市民ボランティア登録者のうち活動内容が「子ども・教育」の方の活動回数は延べ2,736名 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から指標名・内容を市民ボランティアのみでなく、一般のボランティアを含めた形で提示する。 		

ウ 学校や地区公民館を拠点として地域の学びと交流を推進する。

指標名 ・内容	①火災、地震等災害別の防災訓練の実施	担当課室等	学校教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、防災訓練を実施している。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回災害別の防災訓練を実施する。 		

H28 末成果	・各学校で、年2回の防災訓練と、年1回の防犯訓練を実施した。
課 題	・来年度も継続的に防災・防犯訓練を実施する。

指標名 ・内容	①通学路の安全点検	担当課室等	学校教育課 教育総務課
H27 末	・平成26年度実施の通学路安全点検により認知された危険箇所49箇所について各道路管理者が安全対策を実施した。		
目 標	・橋本市通学路交通安全プログラムに則り、通学路の安全点検を実施する。		
H28 末成果	<p>・橋本市通学路交通安全プログラムに則り、通学路の安全点検を実施した。危険箇所を確認し、対応について協議した。（学校教育課）</p> <p>・2年に1回の合同点検および通学路交通安全プログラムの更新の年度であり、前回から状況等が変化し危険箇所として指摘のある箇所を合同点検し、プログラムに追加する予定。（対策済み箇所は年度末に確認します。）（教育総務課）</p>		
課 題	<p>・財政上の都合で、危険箇所すべてに対応することが困難である。</p> <p>・複数年度で対応していく。（学校教育課）</p> <p>・危険箇所であっても、通学に利用せざるを得ない場所が多数あるが、費用面等の関係でハード面での安全対策をとることが難しいことから、ソフト面に頼らざるを得ない。（教育総務課）</p>		

指標名 ・内容	②登下校時の見守り活動の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	・毎年約500名の見守りボランティアを登録している。		
目 標	・500名の見守りボランティアの登録を維持する。		
H28 末成果	・今年度、見守りボランティア登録者は、496名となり、目標達成率は99.2%に及ぶ。		
課 題	・今後も各中学校区青少年健全育成会議・学校・地域・教育委員会が一丸となって、安心安全な登下校時の見守り活動を保持する。		

指標名 ・内容	②子どもを守るための啓発活動・講演会の実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	・各中学校区単位で独自に研修会、講演会等を実施している。		

目 標	・引き続き各中学校区での研修会等の実施と各健全育成会議と連携して講演会等を実施する。
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本中央中学校区…教育講演会、平成 28 年 11 月 11 日、45 名参加 ・紀見東中学校区…講演会、平成 28 年 11 月 24 日、155 名参加 ・紀見北中学校区…講演会、平成 28 年 12 月 2 日、36 名参加 ・高野口中学校区…教育講演会、平成 29 年 1 月 14 日、73 名参加 ・隅田中学校区…パネルディスカッション、平成 29 年 1 月 28 日、354 名参加
課 題	・今年度、3 中学校の統合があったが、特に問題もなく、各中学校区がそれぞれ地域性を活かした事業を展開し、次年度への青少年健全育成の礎に繋がる。

指標名 ・内容	③「おもしろ算数・数学教室」、「低学年のための親子算数教室」、「岡潔博士顕彰事業」、「低学年のための親子科学教室」、夏休み中の「ワクワクおもしろ科学教室」の開催	担当課室等	中央公民館
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろ算数・数学教室」9 回開催、参加者 78 名 ・「低学年のための親子算数教室」7 回開催、参加親子 22 組 ・「岡潔博士顕彰事業」講演会を開催、200 名の来場者 ・「低学年のための親子科学教室」10 回開催、参加親子 20 組 ・夏休み中の「ワクワクおもしろ科学教室」地区公民館 8 館で開催 参加者子ども 109 名、保護者 43 名 		
目 標	・各事業広報活動を行い、参加者増を目指す。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろ算数・数学教室」8 回開催、参加者 64 名 ・「低学年のための親子算数教室」8 回開催、参加親子 282 組 ・「岡潔博士顕彰事業」講演会を開催、230 名の来場者 ・「低学年のための親子科学教室」10 回開催、参加親子 20 組 ・夏休み中の「ワクワクおもしろ科学教室」地区公民館 8 館で開催 参加者子ども 96 名、保護者 32 名 		
課 題	・近年子供たちが、学校行事や習い事等に時間をとられてしまい、このような事業に参加しにくい状況となってきた。		

指標名 ・内容	③橋本市民大学いきいき学園などの開催	担当課室等	中央公民館
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年生から 3 年生まで各学年 30 名、計 90 名が在籍している。 ・毎月 1 回の講座開催と年 1 回オープンカレッジの開催をしている。 ・運動会・学芸会の開催や、学年ごとの課外活動・クラブ活動の開催も行っている。 ・60 歳以上の橋本市民を対象にしている。 		

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶだけでなく、学生自身が講師となり、教える側・学ぶ側との相互学習の機会を取り組み入れ、生涯学習として取り組む。
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの地域づくりをテーマに、持続可能な地域を目指し、実践的な地域づくりの手法や、住民が主役のまちづくりを行うためにできることを学習するとともに、それぞれの地域に持ち帰り、実践を通して新たな交流と学びを得ている。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年受講希望者が多く、抽選により受講者を決定するが、参加できなかった方からの不満を多く聞く。 ・会場のキャパシティの都合上、定員を増やすことができないのが課題である。

指標名 ・内容	③グラウンドゴルフ大会やハイキングなど、スポーツ・レクリエーションの開催	担当課室等	中央公民館
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館で各種事業を開催している。参加者、延べ約 1,100 名。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向きの取組が多く、参加者も多いが、若年層向けの事業を開催する。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ交流会は悪天候により中止となったが、約 350 名の参加申し込みがあった。 ・その他各地区公民館の事業にも多くの来場があった。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・天候に左右される事業が多いので、どうしても来場者数が天候に左右されてしまう。 		

エ 福祉と教育が連携し、安心・安全、学びのまちづくりを推進する。

指標名 ・内容	①「家庭教育支援相談室」の活用	担当課室等	社会教育課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度新規事業 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の稼働率 90%を目指す。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市子どものための教育福祉連携会議や家庭教育支援チームヘスティアによる会議、個別相談などで「家庭教育支援相談室」を使用した。 各団体の使用回数合計：215 回 【部屋の稼働率】 使用回数合計/日数=89.3% 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、橋本市子どものための教育福祉連携会議や家庭教育支援チームヘスティアによる個別相談などで「家庭教育支援相談室」を使用予定である。 ・平成 29 年度からは教育福祉連携推進室が市長部局にできるので、部屋の稼働について協議が必要と思われる。 		

指標名 ・内容	①「橋本市子どものための教育福祉連携会議」を設置	担当課室等	社会教育課
H27 末	・平成 28 年度新規事業		
目 標	・「橋本市子どものための教育福祉連携会議」を設置し、教育と福祉の連携に関する具体的施策を検討する。		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市子どものための教育福祉連携会議の本会議を 7 回、構成員のみの会議を 5 回、職員連携会議を 10 回実施し、関係者で熱心に協議できた。 ・次年度からの子育て世代包括支援センターと各関係機関との連携に向けての十分な協議ができた。 ・就学時健康診断での保護者説明会を、3 才半健診後の市内全保護者に関わる機会、及び孤立する保護者の防止につなげる機会という視点で捉え、連携関係者であるヘスティアによるワークショップを、モデル校で行った。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時健康診断での保護者説明会の実施に当たっては、その年の持ち方により、ヘスティアによるワークショップがない学校もあるので、子育てに不安を感じている就学時期の保護者を見つける方法に工夫が必要である。 ・小学校の協力を得て、子育て情報誌「げんきっこ」や「のびの〜び」等を活用しながら、市には悩み相談の機関・方法が様々あることを広報し、保護者とのつながりをつくる。 		

指標名 ・内容	②学童保育の充実	担当課室等	教育総務課
H27 末	<ul style="list-style-type: none"> ・県主催の指導員研修を開催した。 ・平成 27 年度、三石小学校に第 2 学童を開設した。 		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の指導員対象の研修を開催する。 ・平成 28 年度の学童保育の施設不足、及び夏休みの学童保育の施設不足について学校と協議し、解消を目指す。 		
H28 末成果	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの学童保育の施設不足については、学校と協議し、橋本小学校の生活科室などの余裕教室の空き時間を利用して、学童保育の臨時会員の増加に対応した。 ・平成 28 年度の学童保育の施設不足については、あやの台小学校において、学校と協議の上、余裕教室を利用して学童保育所を新設し、対応した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・増え続ける学童保育児童により施設不足が続いているため、場所の確保が課題である。原則として、学校と協議した上での、余裕教室の利用による対応を考えている。 ・学童保育児童がどこまで増えるかについては、調査、検討が必要である。 		

オ 子どもの健やかな成長に向けて「橋本市子どもスマホ宣言」を推進する。

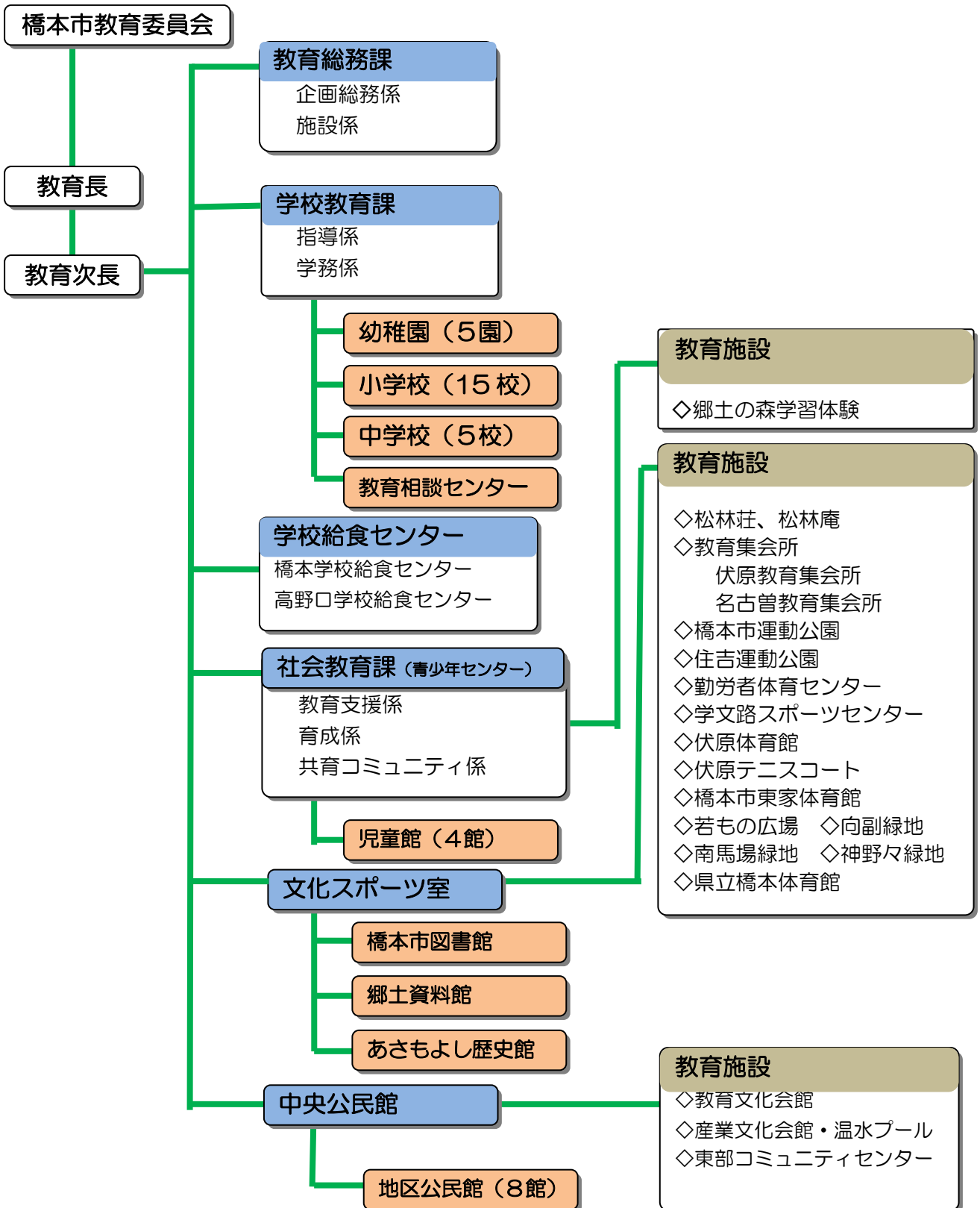
指標名 ・内容	①ネットモラルに関係した研修会の開催	担当課室等	社会教育課
H27 末	・各校に最低、年1回、学習会等の実施を求めている。		
目 標	・各校とも、必ず年1回、学習会を実施する。		
H28 末成果	・各校種々の機関から講師を招きネットモラルに関する学習会を実施した。		
課 題	・「橋本市子どもスマホ宣言」の認知度をさらに上げるための取組みを展開する。		

指標名 ・内容	①ネット利用に関するアンケートの実施	担当課室等	社会教育課
H27 末	・平成27年度では、児童生徒向け1回、保護者向けに1回の計2回実施した。		
目 標	・児童生徒のネット利用の実態を把握し、ネット依存に陥らないよう指導する。		
H28 末成果	・児童生徒、保護者対象にネット利用に関するアンケート結果から、H27末を把握し、指導方針を定めることができた。		
課 題	・アンケート結果をフィードバックし、より安全にネット利用できるよう啓発広報していく。		

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 橋本市教育委員会機構図

(平成 29 年 4 月 1 日現在)



2 教育委員会の会議等の活動状況

(1) 橋本市教育委員会委員(平成 29 年 4 月 25 日現在)

職 名	氏 名	教育長・委員就任年月日
教 育 長	小 林 俊 治	平成 27 年 4 月 25 日
委員長職務代行	清 田 信	平成 26 年 4 月 22 日
委 員	田 中 敬 子	平成 29 年 4 月 22 日
委 員	米 田 惠 一	平成 29 年 4 月 22 日
委 員	中 尾 悦 子	平成 27 年 4 月 22 日
委 員	森 田 知世子	平成 29 年 4 月 21 日退任

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月 1 回定例会を、また、必要に応じて臨時会を開催している。このほか、事前協議等のための会議を開催している。

- ① 平成 28 年度開催状況 定例会 12 回 臨時会 1 回 事前会議 12 回
- ② 定例会及び臨時会の議案等件数 付議事項 37 件 報告事項 41 件
- ③ 付議等の主な内容

教育行政の基本計画・基本方針に関すること。

教職員の人事、服務に関すること。

附属機関の委員の任免並びに委嘱及び解嘱に関すること。

条例、規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること。

教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る公表等に関すること。

教育委員会の行う表彰その他の重要な表彰に関すること。

(3) 教育委員の活動状況(教育委員会会議以外の主な活動) ()内は委員の延べ人数

- ① 小中学校を訪問し、授業や施設等の視察後、学校長等と意見交換・・・6校(30 名)
- ③ 教育委員会連絡協議会総会、研修会等の各種会議に出席・・・12日(27 名)
- ④ 学校等において開催された研究会や教育講演会等に出席・・・ 4日(8 名)
- ⑤ 小中学校運動会や文化・スポーツ行事へ出席・・・16日(40 名)
- ⑥ 表彰式、記念式典等に出席・・・10日(19 名)
- ⑦ 市立小学校、中学校の卒業式に出席・・・10 校(10 名)
- ⑧ 定例市議会に出席

(4) 教育功労賞

次の部門において、著しく功績あった方に対し表彰を行い、功績を称えた。

- ① 学校教育 4 名

IV 関連資料

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋

第二十六条 (一部省略)

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条の規定に基づき、橋本市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第 2 条 教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、そのH28末成果及び課題等について自ら評価するものとする。

(学識経験者等の知見の活用)

第 3 条 教育委員会は、点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、点検及び評価の実施方法並びにその内容等について意見を聴取するなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(点検及び評価の結果の活用)

第 4 条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案等、効果的な教育行政の推進等に活用するものとする。

(市議会への報告等)

第 5 条 点検及び評価の結果については、報告書を作成して市議会へ提出するとともに公表するものとする。

(その他)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項については、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年10月8日から施行する。

3 教育委員会事務の点検及び評価に係る有識者会議委員名簿

任期:平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

氏 名	役 職 等	備 考
久保 富三夫	帝塚山学院大学人間科学部教授	教育法学、教師教育、教育行政学
瀬岡 佳史	橋本市社会教育委員会議副議長	元高等学校長
田中 博晃	橋本市PTA連合会会長	高野口中学校PTA会長

(3)教育委員の活動状況(教育委員会議以外の主な活動) ()内は委員の延べ人数

- ① 小中学校を訪問し、授業や施設等の視察後、学校長等と意見交換・・・6校(24 名)
- ① 教育委員会連絡協議会総会、研修会等の各種会議に出席 ……12日(27名)
和歌山県市町村教育委員会教育長会1日1名、1日5名、1日4名
全国都市教育長協議会2日2名
和歌山県都市教育長協議会総会1日1名
近畿都市教育長協議会2日2名
白浜2日10名
和歌山県教育長との意見交換会1日1名
伊都教育長会1日1名
- ② 学校等において開催された研究会や教育講演会等に出席 ……4日(8 名)
教育フォーラム1日5名
こころの研修1日1名
和歌山の教育を語る教育委員会議1日1名
伊都教育講演会1日1名
- ③ 小中学校運動会や文化・スポーツ行事へ出席……………16日(40名)
運動会(小学校)3日15名(中学校)1日5名、橋本マラソン1日5名、成人式1日5名
ライオンズ野球大会1日1名
隅田八幡相撲大会1日1名
南海砂利野球大会1日1名
バレーボール大会1日1名
スポーツ少年団野球大会1日1名
前畑記念大会1日1名
空手道大会1日1名
ふるさと展望1日1名
ふれあって西部1日1名
隅田地区公民館文化祭1日1名

表彰式、記念式典等に出席 ……10日(19名)
下里運動公園オープンセレモニー1日1名
ライオンズクラブ50周年1日1名
ライオンズクラブチャーターナイト50周年1日1名
高野口文化財研究会記念事業1日1名
高野参詣道世界遺産登録記念1日1名
菊花展表彰式1日1名
社福 光誠会記念式典1日1名
教育功労賞1日5名、文化表彰1日5名
賀詞交換会1日1名
- ④ 市立小学校、中学校の卒業式に出席 ……10校(10名)